

第149回 日商簿記検定試験 3級 一商業簿記一

解 説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問 仕訳問題

1. 手形貸付金に関する問題である。貸付時に利息を受け取っているため、貸付額と利息との差額が新田商店の普通預金口座に振り込む金額となる。

(借) 手形貸付金	600,000	(貸) 受取利息	6,000
(〃) 普通預金			594,000

※ 普通預金：¥600,000（貸付額）－¥6,000（受取利息）＝¥594,000

2. 商品の販売に関する問題である。商品の販売時に得意先負担の発送費を当店が支払っているため、問題文の指示通り売掛金勘定に含めて処理する。

(借) 売掛金	490,000	(貸) 売上	480,000
(〃) 現金			10,000

※ 売掛金：¥480,000（売上）＋¥10,000（発送費）＝¥490,000

3. 掛代金の貸倒れに関する問題である。前期に販売した掛代金については、前期末に貸倒引当金の設定対象になっているため貸倒引当金を補填し、なお差額が生じる場合には貸倒損失勘定で処理する。

(借) 貸倒引当金	50,000	(貸) 売掛金	130,000
(〃) 貸倒損失	80,000		

※ 貸倒損失：¥130,000（貸倒額）－¥50,000（貸倒引当金）＝¥80,000

4. 広告宣伝費の支払いに関する問題である。広告宣伝費の支払い時に手数料が生じているため、当該手数料は支払手数料勘定を用いて処理する。

(借) 広告宣伝費	35,000	(貸) 普通預金	35,300
(〃) 支払手数料	300		

※ 普通預金：¥35,000（広告宣伝費）＋¥300（手数料）＝¥35,300

5. 固定資産の売却に関する問題である。固定資産の売却は、帳簿価額（取得原価－減価償却累計額）と売却金額との差額を固定資産売却損益として処理する。また、売却代金が未回収である場合には、主たる営業取引（本業）から生じたものではないため、未収入金勘定で処理する。

(借) 備品減価償却累計額	560,000	(貸) 備品	700,000
(〃) 未収入金	20,000		
(〃) 固定資産売却損	120,000		

※ 固定資産売却損：¥700,000（取得原価）－¥560,000（減価償却累計額）
－¥20,000（売却金額）＝¥120,000

第2問 勘定記入

保険料に関する複式簿記の一連の流れを問う問題です。勘定記入面および各仕訳を示す。

<再振替仕訳>

(借) 保険料	14,000	(貸) 前払保険料	14,000
---------	--------	-----------	--------

※ ¥24,000×7か月（1月～7月）/12か月＝¥14,000

<期中仕訳>

(借) 保険料	26,400	(貸) 現金	26,400
---------	--------	--------	--------

<決算整理仕訳>

(借) 前払保険料	15,400	(貸) 保険料	15,400
-----------	--------	---------	--------

※ 26,400 × 7 か月 (1月～7月) / 12 か月 = 21,400

<決算振替仕訳>

(借) 損益	25,000	(貸) 保険料	25,000
--------	--------	---------	--------

※ 検算 : 24,000 × 7 か月 (1月から7月) / 12 か月

+ 26,400 × 5 か月 (8月～12月) / 12 か月 = 11,000

<総勘定元帳> 解答箇所を **ゴシック** としている。

保 険 料							
1/1	前払保険料	14,000		12/31	前払保険料	15,400	
8/1	現金	26,400		"	損益	25,000	
		40,400				40,400	
1/1	前払保険料	15,400					

前 払 保 険 料							
1/1	前期繰越	14,000		1/1	保険料	14,000	
12/31	保険料	15,400		12/31	次期繰越	15,400	
		29,400				29,400	
1/1	前期繰越	15,400		1/1	保険料	15,400	

第3問 合計残高試算表

平成30年4月中の仕訳を示す。

2日	(借) 売上	10,000	(貸) 売掛金	10,000
3日	(借) 未払金	86,000	(貸) 現金	86,000
4日	(借) 仕入	182,000	(貸) 前払金	30,000
			(〃) 買掛金	150,000
			(〃) 現金	2,000
5日	(借) 現金	3,000	(貸) 仮払金	15,000
	(〃) 旅費交通費	12,000		
6日	(借) 所得税預り金	13,000	(貸) 現金	13,000
10日	(借) 現金	50,000	(貸) 売上	250,000
	(〃) 売掛金	200,000		
12日	(借) 仕入	120,000	(貸) 支払手形	120,000
13日	(借) 租税公課	3,000	(貸) 現金	3,000
16日	(借) 買掛金	57,000	(貸) 支払手形	57,000
18日	(借) 受取手形	200,000	(貸) 売上	200,000
20日	(借) 給料	100,000	(貸) 所得税預り金	8,000
			(〃) 当座預金	92,000
24日	(借) 当座預金	175,000	(貸) 売掛金	175,000
25日	(借) 水道光熱費	73,000	(貸) 当座預金	82,000
	(〃) 通信費	9,000		
26日	(借) 備品	354,000	(貸) 未払金	354,000
27日	(借) 支払手形	80,000	(貸) 当座預金	80,000

30日	(借)	借入金	200,000	(貸)	当座預金	201,000
	(〃)	支払利息	1,000			

第4問 空欄補充

1. 評価勘定とは、主たる勘定の価額を修正すべく従属して用いられる勘定であり、単独では意義を有しない勘定である。減価償却累計額勘定や貸倒引当金勘定が代表例である。
2. 会計帳簿は主要簿（仕訳帳および総勘定元帳）と補助簿（補助元帳と補助記入帳）から構成される。主要簿とは企業が必ず作成しなければならない帳簿のことをさし、補助簿とは企業の任意で作成される帳簿のことをいう。そのため、買掛金元帳は補助簿に該当する。
3. 固定資産の修繕を行った場合には、資本的支出と収益的支出に分類される。資本的支出とは、耐用年数の増加や、固定資産の価値を増加させるための支出をいうため、この場合には固定資産勘定で処理される。
4. 3伝票制を採用している場合には、現金収入があった場合に起票する入金伝票、現金支出があった場合に起票する出金伝票、これら以外の取引があった場合に起票する振替伝票を用いる。
5. 商品有高帳とは、商品の種類ごとに商品の受け入れ、払い出しの都度、数量・単価・金額を記入し、払出金額（売上原価）および手許有高（在庫）を記録する補助簿である。したがって、売価ではなく原価で記録される。

第5問 財務諸表の作成

決算整理仕訳は以下のとおりである。

1. 現金過不足の振替え

期中において現金の実際有高と帳簿有高に差額が生じている場合には現金過不足勘定で処理し、判明時に適切な勘定に振り替える。なお、決算日現在において判明しない場合には雑益又は雑損勘定に振り替える。

(借)	通信費	800	(貸)	現金過不足	1,000
(〃)	雑損	200			

※ 雑損：¥1,000（T/B現金過不足）－¥800（通信費計上漏れ判明分）＝¥200

◆ 通信費：¥230,000（T/B通信費）＋¥800＝¥230,800

2. 内金の修正

商品の内金を受け取った場合には、将来商品を受け渡す義務が生じるため、前受金として負債に計上する。また、内金受け取り時に売上を計上しているため、売上を取り消す。

(借)	売上	20,000	(貸)	前受金	20,000
-----	----	--------	-----	-----	--------

◆ 売上：¥4,000,000（T/B売上）－¥20,000＝¥3,980,000

3. 仮払金の判明

勘定科目不明のため仮払金勘定に計上していたものが判明した場合には、適切な勘定科目に振り替える。

(借)	備品	120,000	(貸)	仮払金	120,000
-----	----	---------	-----	-----	---------

◆ 備品：¥2,000,000（T/B備品）＋¥120,000＝¥2,120,000

4. 貸倒引当金の設定

(借)	貸倒引当金繰入	7,000	(貸)	貸倒引当金	7,000
-----	---------	-------	-----	-------	-------

※ ¥360,000（T/B売掛金）×2%－200（T/B貸倒引当金）＝¥7,000

◆ 貸倒引当金：¥200（T/B貸倒引当金）＋¥7,000＝¥7,200

5. 売上原価の算定

売上原価は、期首商品棚卸高に当期商品仕入高を加算し、期末商品棚卸高を差し引くことにより算出される。計算の便宜上売上原価勘定で売上原価の算定を行う。

(借) 売上原価	180,000	(貸) 繰越商品	180,000
(借) 売上原価	2,200,000	(貸) 仕入	2,200,000
(借) 繰越商品	203,000	(貸) 売上原価	203,000

◆ 売上原価：¥180,000 (T/B繰越商品) + ¥2,200,000 (T/B仕入)
 - ¥203,000 (期末商品棚卸高) = ¥2,177,000

6. 備品の減価償却

(借) 減価償却費	255,000	(貸) 備品減価償却累計額	255,000
-----------	---------	---------------	---------

※ 減価償却費：¥2,000,000 (T/B備品) ÷ 8年 = ¥250,000
 ¥120,000 (期中取得分、上記3.)
 ÷ 8年 × 4か月 (9月～12月) / 12か月 = ¥5,000

◆ 減価償却累計額：¥500,000 (T/B備品減価償却累計額) + ¥250,000 + ¥5,000 = 755,000

7. 家賃の前払い

(借) 前払家賃	15,000	(貸) 支払家賃	15,000
----------	--------	----------	--------

◆ ¥90,000 (T/B支払家賃) - ¥15,000 = ¥75,000
 ※「前払家賃」は貸借対照表上「前払費用」として表示する。

8. 手数料の前受け

(借) 受取手数料	30,000	(貸) 前受手数料	30,000
-----------	--------	-----------	--------

※ 前受手数料：¥360,000 × 1か月 (平成30年1月) / 12か月 = ¥30,000
 ◆ 受取手数料：¥800,000 (T/B受取手数料) - ¥30,000 = ¥770,000
 ※「前受手数料」は貸借対照表上「前受収益」として表示する。

9. 借入金利息の計算

(借) 支払利息	3,500	(貸) 未払利息	3,500
----------	-------	----------	-------

※ 未払利息：¥200,000 (T/B借入金) × 3%
 × 7か月 (平成29年6月～平成29年12月) / 12か月 = ¥3,500
 ※「未払利息」は貸借対照表上「未払費用」として計上する。